

石狩市・厚田村・浜益村合併協議会  
第2回 新市建設計画小委員会

---

《 会 議 録 》

会場：厚田村議会 議場

日時：平成15年7月4日(金) 14:00～15:45

## 第2回 新市建設計画小委員会会議録

開催日時：平成15年7月4日(金) 14:00～15:45

開催場所：厚田村議会 議場

### 【出席委員】(敬称略)

委員長

加納 洋明

副委員長

河合 雅雄      岸本 正吉

委員

長原 徳治      池端 英昭      大山 弘行      山根 利子      浅井 秀樹  
小池 弓夫      藤原 市子      相原 一男      中村 東伍      田中 宣律

### 【欠席委員】(敬称略)

沢田 富男      佐藤 克廣

### 【事務局】

工藤 泰雄      清水 敬二      松儀 倫也      佐々木 大樹      中村 裕一

【傍聴人】 3人

## 議事日程

1．開会.....	3 頁
2．協議事項.....	3 頁
(1) 「新市将来構想策定に関する意見」について.....	3 頁
(2) 「新しいまちづくりへの提言」について.....	3 頁
3．その他.....	19 頁
(1) 第3回会議の開催日時等について.....	19 頁
4．閉会.....	20 頁

## 1. 開 会

加納委員長 本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。ただ今から「新市建設計画小委員会」を開会いたします。なお、ただいまの出席委員数は13名でございますので、定足数に達しております。

## 2. 協議事項

加納委員長：それでは、協議事項に入りたいと思います。本日の協議事項は、前回の委員会において、各自作成のうえ持ち寄ることを確認いたしました「提言シート」に基づきまして、「新市将来構想の策定に関する意見」及び「新しいまちづくりへの提言」の2点について、それぞれ委員の皆さんから率直なご意見、ご提言をご発言をいただくとともに、自由な意見交換を行っていただくこととなっておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、本日の委員会の会議結果は、今後、当委員会で審議する「新市将来構想」たたき台の作成に反映することになっております。なお、会議時間の都合もございますので、大変恐縮ですが、ご発言は、「新市将来構想の策定に関する意見」及び「新しいまちづくりへの提言」の2点を一括して、お一人5分程度でお願いをいたしたいと思ひます。また、進行状況を見ながら途中10分ほど休憩をとりたいと思ひます。それでは、発言のある委員の方から挙手をお願いをいたしたいと思ひます。ございませんか。

できれば、自主的に挙手をいただひてご発言をいただきたいというのが一番なんですけれども、もし挙手がなければ、石狩、厚田、浜益の皆さんに交互にご発言をいただきたいなと思ひておりますので、まずはご発言を自主的にということ、始めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。はい、池端委員。

池端委員：池端でございます。まず新市の将来、構想について大きく3点でテーマを考えさせていただきます。1点目としては3自治体による「住み良い暮らしの環境づくり」ということ、そして2点目に「機能的で活気ある産業構造の基盤づくり」、そして3点目「特色ある地域づくり」というような、大きく3点に分けて考えさせていただきます。その中でまず1点目の「住み良い暮らしの環境づくり」という面では、地域の歴史を尊重し、生き生きと暮らせる生活環境の整備を行っていきたいということでございます。その中で4点ほど、詳細というか細目をおおざっぱに考えてきたんですが、地域の子どもたちが相互に交流できるような教育環境づくりが必要ではないかなと思ひております。そして、高齢者が安心して暮らせる公共施設や公共住宅施設の整備、効率的な交通アクセスの整備、そして、地域格差のない福祉政策の充実。以上1点目につきましては、この4点を考えさせていただきます。

そして2点目の「機能的で活気ある産業の構造基盤づくり」という点では、基本的な産業でございます、農業、漁業、工業、観光を再構築し、新市における産業構造を確立していくべきではないかなと思ひております。その細目の1点目としましては、広域農業振興に対する構造の抜本的な改革、これは例えば共同経営ですとか、共同運用ですとか、そのようなものを3自治体が共に、関係農業者による関連を深めていきまして、そういうシステム作りをしていく必要があるのではないかなと思ひます。そして2点目、水産物の流通拠点づくりと水産の加工企業の誘致、水産関係に関連する企業の誘致ですとか、そういうものを発展させることが望ましいと思ひます。そして本市における部分なんです、石狩湾工業地域として、石狩市にある工業地帯の企業誘致を全面的に推進する必要があるのではないかなと思ひます。それとこの3自治体における観光とい

うものをしっかり把握した中で、一つの自治体として、エリア、エリアに分かれた観光ネットワーク、こういうものの構築の必要性もあるというふうに考えております。

大きく分けた3番目の「特色ある地域づくり」になりますけれども、保養レクリエーションの拠点づくりというものを考えていく方がよろしいかなと考えております。例えば、一つ目として、厚田から浜益の方面へ行きますと断崖絶壁がありますが、登山やロッククライミングといったような施設づくり、施設というよりは自然形状を活かしたレクリエーションの場ですとか、また、厚田の方にはモータースポーツ施設、カートといった施設もございますが、人里離れて住民に迷惑のかからないという所ではそういうようなモータースポーツの振興も考えられるのかなというふうに考えております。

そして、起伏の激しい地域の形状を踏まえて、スカイスポーツ、パラグライダーですとか愛好者による関連施設の建設など、環境整備も考えられると思います。それと全般的に保養施設ですね。自然環境を活かした保養施設。そして231号線に面した道の駅、これも是非、地場産業の振興も含めて、そういう拠点づくりとして道の駅の誘致というものも考えられる一つじゃないかなと思います。また、林野庁の関係もございますが、厚田・浜益に広がる広大な林野、その中にある林道を使ったレクリエーション施設、家族がマウンテンバイクみたいな物で、そちらを利用できるような、今ある資源を使ったレクリエーション施設も考えられるかなと考えております。

以上、大きく分けて3点、それに伴う細目を述べさせていただきました。よろしく願いいたします。

加納委員長：ただ今、石狩市の池端委員からそれぞれご提言をいただきました。次に。はい、石狩市の小池委員、よろしく願いいたします。

小池委員：小池でございます。それでは私がまとめたレポートをご報告いたします。新市将来構想というのは、現在の人口動態であるとか、あるいは産業構造などをよく把握して、その中身を検証し、その結果は少なくとも合併時から向う10年間を想定した活気のあるまちづくり計画の策定が、是非、必要だと考えます。このため、マスタープランは夢のある、大胆かつ実現可能なものでなければならないと思います。

そこで私は、新市が益々発展する可能性が大きいという認識で、その前提となります新市の経済産業基盤というべき4点を課題にして、真剣に取り組むべきだと考えております。

まず、第1は、「札幌のサテライトシティ」、衛星都市ですね。この重要性というのは、よその市町村と比べて、全く違う人口動態の形態だろうと思います。石狩花川地区の周辺の宅地造成というのはほぼ終わっているだろうと思うのですが、今後は、その人口増が当然期待される訳ですから、花川地区周辺の宅地造成が、今どう進行し、これからどういう計画を官民が持っているのかということを調査すべきだと考えます。その調査の結果を冷静に分析して、新規宅地造成を積極的に取り組んでいくべきだと考えております。

2番目ですが、「石狩湾新港開発の抜本的改革」でございます。ご承知のように、第3セクターは既に破たんしております。お膝元の石狩、これは行政もそうでしょうし、一般市民はどうもあまり認識が深まっていないんじゃないかなと。行政の方は及び腰ではないかなというふうに考えております。したがって、新市ができあがった時点、その以前、今からでも遅くありませんので、もっと発言力を強めて、リーダーシップの役割というものを果たして欲しいと思います。貨物船の入港、出港はもとよりのことですが、企業の後背地、ヒンターランドと言うんだそうですけれども、こういったものを誘致して、従業員の石狩定住、張り付け促進をしてもらいたいな

というふうに考えております。

それから、3点目ですが「都市郊外型農業の推進」。これも専門家の立場からすれば、それはもうやってますよ、とおっしゃるかも知れませんが、やっぱり札幌の大都市を控えておりますから、この地の利を活かして野菜、果物、それから花きというものを組織的に生産し、大消費地札幌に送り込むべきだというふうに思います。それから、農業に目を向ける脱サラの人たちが全国的にずいぶん増えているようですけれども、そういった人たちへ農地を開放、併せて年金生活者にも遊休農地というものを有効利用してもらおう。それによって生き甲斐までつながる訳ですが、みんな楽しく、そして石狩へ行けばこういうことが出来るんだという魅力を引き出せるのではないかなというふうに考えます。

それから4点目ですけれども、「育てる漁業の振興」ということを積極的に取り組んでもらいたいなと思います。従来のサケ漁は当然大事にしながら、栽培漁業に力を入れて、人口流出に歯止めをかける、というようにしてもらいたいと思います。全体的に申し上げますと、よその市町村と比べて違う点は、農業、漁業の基幹産業にそう大きな違いはないだろうと思いますけれども、人口が6万人を超える状況でありますので、このことは、やはりサラリーマン、いわば札幌のベットタウンとしての重要性というのは真剣に取り組んでいかなければならないことと考えます。

以上、4点の重要事項を申し上げましたが、私がレポートを書き上がった時点で、実は、送っていただいた資料、石狩の長期計画に「人口10万人都市を目指す」というふうに書いてありました。そう、私も間違った考えではないなという事です。資料によりますと、これは事務局の方でまとめられたものですが、6万から7万の数字が出ていますので、やっぱり人口的に10万を超えるというのは、大変なことのごさいます。人口増、多いに越した事はございませんので、私は、もう一度、新しい気持ちでトライをする、「人口10万都市、新市」ということを提言したいと思います。以上です。

加納委員長：ありがとうございました。次に、はい藤原委員。

藤原委員：面積は広大で豊かな自然資源はあるんですけれども、いただいた資料によりまして厚田・浜益地区の自治体経営は地方交付税に頼りきりの状態ですし、また、石狩市も含めまして3つの市町村の高齢化の流れというのは、これは止めようもないように思います。人口の伸びは長期計画では先ほどおっしゃいましたように、10万と書いてありましたけれども、実務資料の方では、20年後でも石狩市でせいぜい6万ぐらいということでしたので、それが妥当な線かなと、7万ぐらいじゃないかなというふうに思います。そうするともちろん政令指定都市にもなりませんし、いわゆる中核都市という性格も持てないと思います。ですから、合併、新市という大きく晴れがましく考えたいとは思いますが、やはり昔のバブルの夢を重ね合わせることなく、コンパクトな市政、市役所を基本に、まずそれで自主自立の道を考えるということで構想を立てていきたいなと思いました。

それから、新しいまちづくりの重点として期待することについてですが、この広大な素晴らしい地域なんですけれども、やはり衣食住、医療とか職業、遊びとか余裕、芸術文化振興とか学ぶこと、エネルギーそれらすべてのものが地域全体で賄える、自給自足が出来るような都市を目指すべきだと思います。そして生産物の供給とか、外からの人の入り込みで財政的な余裕をもつような都市にしていったらいいのではないかと思います。

その中で長期滞在型、ターゲットは高齢者がいいと思うんですけれども、そのリゾート、子供のための体験学校などを通年で、冬の体験も必要ですので、全部丸めて体験が出来るというよう

な長期滞在型のリゾート地を作っていったらいいと思います。それを支えていくのは元気な高齢者だったり、一度離職した後なかなか再就職がない、特に女性など育休を取った後で就職に返ることが難しい状況なんですけれども、男性の失業率ももちろんそうなんですけれども、そういう中で新しい職、それがいわゆる収入源、新しい働き方ともなるような、新しい形態なんかも作っていったらいいと思います。

そのためには、全体がバリアフリーのまちづくりをして、自然エネルギーを活用し、自分の町のエネルギーは自分たちで賄うくらいの気持ちでやって行かなければならないかと思っています。

交通体系について言えば、道路体系、国道沿いのことなんですけれども、人が入ってくるということを考えると、港から人が入ってくるやり方、今は貨物船などで、遊覧で人が入ってくるということは設定されていないと思います。あとは空港、滝川空港は小さなセスナなどのもので、たぶん普通の大きなものは来ないんだと思うんですけれども、やはり一番遠くから空港を使うとなると滝川が近いんじゃないかなと、そうするとそこが性格も変わってこなければならぬと思うんですけれども、そういうための道路体系の見直しなどが必要になってくると思います。

それから、その他のことなんですけど、事業計画の中にシンポジウム開催の項目がありますが、是非、内橋克人さんと呼んで欲しいなと思います。エネルギーも含めた地域完結型のまちづくりということを書いてらっしゃる方なので、是非お話を聞きたいなと思います。以上です。

加納委員長：はい、ありがとうございました。次、河合委員お願いします。

河合委員：市町村の将来構想について考え方を述べさせていただきたいと思います。新市将来構想の策定に当たっては、関係する市村で産業構造が大きく違います。石狩市は3次産業中心ですし、厚田、浜益は1次産業が中心であります。そして生活圏も石狩市と厚田村と、大きく差があります。それと自治体規模にも大きな差がある事から、小さなものが大きなものに呑まれる、将来お荷物になるんでないかという不安、それぞれ住民が抱えていることから、それぞれの地域の個性を伸ばすことに主眼をおいて、片寄る事のない将来構想を策定されてはいかかかなと思います。

新しいまちづくりの重点として期待することとして、いくつか拾ってみましたけど、まず、国道・道道・市村道等の整備ということで、石狩市が考えている軌道の問題、231号線の石狩河口橋の拡幅が技術的に無理という事の中から、私も議会で石狩市の発展なくして厚田村はないということで、元の渡船場の附近に新しい橋を作ったらいいんじゃないかということを書いて前に発言したこともありますけど、そういうことで冬期間を含めて安全な交通を確保するというのを重点的に考えて行ったらいいんじゃないかと思っています。

それから、1次産業の振興対策、石狩湾の振興の対策、そして豊かな自然を持つ厚田・浜益地域の都市との交流の対策、地域の文化や特性を維持発展させる対策も必要かと思っています。それから、森林の整備を推進していただきたい。石狩市民憲章の中には、「きれいな海、きれいな川、きれいな空」というのがありましたけれども、将来は「緑」にしていっていただきたいなと考えていました。

また、今、少子・高齢化の進む中で、保健・福祉・医療を充実した、住民が安心して生活できる対策等も考えていただきたいと思います。

その他ですけれども、合併を機会に、各市村が希望する新規事業についてバランス良く配置されることを希望いたします。以上考えております。

加納委員長：ありがとうございました。次どうでしょうか。はい、浜益の大山委員よろしくお

願います。

大山委員：まず、新市将来構想の策定全般に関する意見を申し述べます。

市町村合併協議会で調整案をまとめるためには、関係2村の村民がデメリットと感じていることを解決し、又は緩和する必要があると思います。まず、3市村間の距離から発生する不便の解消が大事であります。交通弱者と言われている高齢者や児童の通院、買物、通学に対する不安を解消する必要があると思います。

次に、高齢者や幼児を抱える保護者としては、急病やケガに対する診療所の確保が非常に心配されているところでございます。更には公共料金の住民負担の増加が不安視されています。何よりも大切なことは、公共投資のバランスを図ることによって、将来、編入されるであろう地域においても、公共サービスが向上し、安心して住めるような社会基盤整備が行われることを明らかにすることが重要であると思っています。

他に、石狩市の市民にとっては、厚田、浜益と合併することによって、石狩市の市民の負担が重くなるのではないかという不安や、石狩市民が期待している地下鉄の延長や高規格道路の整備が遅れるのではないかという思いがあるように見受けられます。石狩市は急激に発展している町ですが、人口の急増に社会基盤整備が追いつかず、不況で税収が減り、更には国の財政難から地方交付税も削減され、市の財政は逼迫している。そして内容が悪化していることから、住民から強い要望がある社会基盤整備についても、今後困難が予想される事態となっています。住民に説明し、よく理解をしていただくとともに、石狩市が大きく発展することについては間違いはございませんが、現在、それを確定的にするための社会基盤整備のための資金が不足しているように思われます。それを解消して、発展の安定軌道に乗せるために、今、国が進めている市町村合併による財政支援措置を活用することが重要であり、それによって、石狩市が更に発展し、財政基盤も安定することにより、地下鉄の延長や、高規格道路も自然と解決のための道が開けることと思います。

石狩市は札幌と異なった市の特色を活かしたまちづくりをするべきであります。それは十分に可能であるし、都市機能は中心部へ作り、厚田、浜益地区は、美しい景観や自然の癒し効果やうるおい、あるいはゆとりを求める人々にとって魅力ある福祉のまちづくり、ドライブや海や山のレジャーと地場特産の農水産品や味覚を生かした観光のまちづくりをするべきであると思います。そのようなまちづくりをすることこそ、他の市町村に誇れる、住民が住んで良かったと思う魅力あるまちづくりであると確信しているところでございます。

次に、新しいまちづくりの重点として期待することについて申し上げます。

一つ目としては、コンパクトシティ化による公共サービスの効率化ということでございます。私どもの浜益村では、ほとんどが高齢者のみという少人の集落がいくつかあり、集落の崩壊が迫っている地域があります。福祉のまちづくりや住民サービスの効率化のためにも、浜益温泉と隣接する特養ホームの隣りに建設されているシルバーホームが老朽化していることから、福祉の里づくりとして、ケアハウスとして建替えをし、高齢者のみの集落の方々に入居を勧め、住民サービスの効率化を図る必要があると思います。

また、特養ホームについても20床では稼働効率が悪いこと、今後、浜益村に増大する介護に対する、あるいは近隣の町村におきましてもそうではございますが、介護の需要に応えるためにも、10ヶ年計画の中で増床を図るべきであると考えています。この地域は浜益温泉とともに自然環境も素晴らしく、静かで立地条件は最高のものを備えております。



次に、交通アクセスの整備と安心して住めるまちづくり。3市村間の文化施設、体育施設、医療施設を広域的かつ効率的、相互に活用するためには、交通アクセスの整備充実が必要でございます。交通弱者と言われている高齢者、児童をかかえる保護者にとっては、バスの利便が一大関心事であります。石狩市では、循環バスの運行を開始しているようでございますが、他に3市村間のバスダイヤを交通弱者の利便に合わせて改正するべきであるし、他の方法についても、今後検討し、是非実現する必要があると思っております。

次に、火葬場の建設について申し上げます。現在、浜益村の火葬場は全て老朽化していて、自治会の応急修理でその場をしのいでいるのが実状でございます。石狩市では遠すぎるし、浜益村では平成5年に群別地区に11,689㎡の建設場所を確保しておりますが、財政難から実現が遅れているのでございます。かねてから住民の要望も強く、是非建設をしたいと思っております。

次に、浜益中学校の建替えの件についてでございます。今まで、浜益中学校の建替えについては、浜益の議会におきましても、何人もの議員から一般質問で村長に建設の決断が迫られておりますが、未だ財源難から建替えが行われておりません。いよいよ限界が迫っていることから、また生徒数が減少していることから考えまして、小学校、中学校、更には給食センターも併設するような計画で実施するべきであると考えております。

次に合併浄化槽の設置事業の推進についてでございます。現在、新築で水洗トイレを設置する場合は、合併浄化槽の設置が義務付けられておりますが、浜益村では依然として合併浄化槽の設置が進んでおりません。公害を防止する上からも、観光産業を振興する上からも、合併浄化槽の設置を事業化する必要があると思っております。合併浄化槽は公共下水道と効果の上では差がないこと、工事がどこからでも始められること、更には市の財政負担が少ないこと、浜益村は南北に細長く13の集落に分散していること等から考えますと、公共下水道よりも合併浄化槽の設置の方が望ましいと考えているところでございます。

次に、6番目として農林水産業とリンクした観光の振興でございます。浜益村は、総面積が311km<sup>2</sup>あります。石狩市の3倍あります。その90%が山林であり、森林は人間を含む自然界に生存する生物の安らぎの場であり、計り知れない公益機能を発揮しております。農業生産は全国で5兆8,300億円と言われておりますが、対しまして森林の自然浄化作用効果は50兆円とも70兆円とも言われています。今後、環境税や森林交付税等の創設も予測され、京都議定書が調印されれば、CO<sub>2</sub>の森林浄化効果を国に対して買い取りを求めることもできると思えます。

また、自然は地域の重要な資本であり、これを活用して、色々なビジネスチャンスが描けると思えます。観る、食べる、遊ぶ、体験する。そこに地産地消を推進することにより、特産の農産物、水産物の独特の味覚を高度調理して、観光客に提供することは、観光客にとりまして大きな魅力であり、地元の農業者、漁業者にとっては特産品の商品としてのグレードを高めるためにも、大きな効果を発揮します。近年、浜益村のサクランボ狩りは、隠れた穴場として人気が急上昇しているところでございます。その農業関係に関連しまして、池端委員も申しておりましたが、浜益村は林道も数多く整備されております。林道と川を活用したハイキングコースの設置、さらには釣りやキャンプ場、山菜採りなどに提供することによって交流人口を増やすことが出来ると思えます。

次に、登山ルートの開設について、浜益村は美しい山が多く、愛好家にとって隠れた登山ルートとなっており、村内にも愛好家のグループがあって今後期待しているところでございます。

次に、3番目といたしまして、冬期間の農業生産の向上と経営の安定。ハウス栽培を工夫する

ことによって、冬期農業の生産性を向上させる。次に、農産品の冬期加工、民芸品の開発制作、農業法人の育成、家畜糞尿の温熱利用や発電、さらには減反問題の解決と農業法人の問題についてですが、日本の食料や飼料の輸入は、世界の環境破壊の原因の一つとも言われており、食料自給率の向上と、農業収入の向上を図るとともに、世界の環境破壊の防止をする上からも、減反せずに水稻を糊熟期に刈取り、ホールクラップサイレージを作り、牛の飼料とする。これによると牛の食い込みも大変良ろしいそうです。農業法人が行う事業の一つとしても有効であり、最低 8 ha の団地化が必要なことから、機械作業の効率を高める上からも、是非支援して行くべきであると思っています。冬場の農業生産の向上と農業法人の育成が実現されれば、後継者問題や、過疎対策の問題も解決につながると思います。

最後に、観光産業の振興の問題についてでございます。浜益村では、観光施設として川下海水浴場にトイレ、歩道、キャンプ場、駐車場が整備されておりまして、特に砂浜に芝生のあるキャンプ場は道内でも珍しく、国道沿いの飲食店では特産品のタコやウニ、ホタテを美味しく調理して提供しており、観光客から高い評価と人気を得ているところでございます。又、漁業者が採れたてのタコを煮ダコとして加工販売していることなども、お土産品として道内でも広く高い評価を受けているところでございますが、一方、川下地区とすぐ川を一本挟んだ柏木地区につきましましては、未だに整備されておりません。海岸の浸食も激しく、近くの民家に危険が迫っております。この柏木地区を海水浴場として整備するために、浜益村には温泉があることから、ボーリングをして温泉を開発するとともに、海岸の浸食を防止し、川を活用してシーズン限定でマリナーとして活用するようなことも考えるべきであると思います。他には駐車場、キャンプ場を併設し、多目的に遊べる観光施設として開発することによって、地域の観光振興を図るとともに、地域の雇用の場を確保し、過疎の防止にも役立つ事と思います。現在、世界的にも、国内的にも、道内的にも、観光収入は産業収入の中で大きなウエイト占めていることから、是非とも観光振興を図ることによって、地産地消が促進され、農業、漁業の振興にも寄与することと大いに期待しているところでございます。是非ともこの点を改善したいと思っております。

加納委員長：詳細にわたりありがとうございました。次ございませぬか。はい、石狩の浅井委員おねがいします。

浅井委員：石狩の浅井です。大きく3点に分けてお話ししたいと思います。まず、前回の協議会で保留になった新設合併が編入合併によるべきかということですが、建前上は新しい地域を創造するという観点から、あくまで新設合併によるべきだと思っておりますが、現実問題としまして、新しい自治体の条例・規則等をすべて新しく作成する必要があります。また、首長や議員の選挙も行わなければなりません。そういった負担、費用と労力に3つの市と村のスタッフと市民の方々が耐えられるか、そして現実問題として合併に反対する市民の方が多い中で理解と協力が得られるかどうか疑問です。以上を考慮すると、結局は編入合併によらざるを得ないと思っております。

二つ目ですが、合併後の3市村は面積約720km<sup>2</sup>で、あの広い札幌市の約2/3にもなります。また非常に縦長の区域になります。したがって、例えば、新しい市の市役所が現石狩市役所になると仮定して、今の浜益村から石狩市役所まで、車でノンストップで走って1時間ちょっとかかります。しかも札幌と違う点は公共の交通機関があまり発達していません。路面が凍結する冬のことも考えますと、現厚田、浜益村の方々が合併後石狩市役所に届出・申請をしに来るとするのは非常に困難ではないかと思っております。したがって、今の現厚田、浜益の役場の機能も当分の間そのまま維持して残す必要があると思っております。

次に、先週送付いただきました「基本的事項に関する調査資料」によりますと、例えば国保の収支は石狩が大幅赤字です。それに対して厚田村は黒字です。水道料金を見ても石狩は他の2村に比べ、使えば使うほど割高な構造になっています。3市村の合併後、こうした社会保険や公共料金も統合されてしまうと、今の厚田や浜益の区域も、もしかしたら値上げされる可能性もあるんじゃないかと思ひまして、こうなると大変不合理です。

以上のことから考えまして、合併後の3市村は一つの行政区域になり、一つの首長、一つの議会のもとに一つの予算が執行されますが、現3市村それぞれの社会保険や公共料金の体系はそのまま維持するという、委って見れば「緩やかな連合体」になることを提案したいと思ひます。以上です。

加納委員長：今、石狩の浅井委員からのご提言については、全体の合併協議会の中での議論とリンクしていると思ひますので、委員会としてはお受けはいたしますけれども、今日の小委員会の中での、新市構想についてのご提言とちょっと意を異にするのかなと思ひますので、それについて再度浅井委員から、今日ではないですけれども、新市構想に関してご提言をいただければと思ひます。他にございませんか。はい、浜益の岸本委員よろしくお願ひいたします。

岸本委員：それでは私の方からも新市将来構想に関して述べさせていただきます。まず、事前に本日の会議の前に各市村の総合整備計画の資料を見せていただきました。年次の違いこそあれ、各市村とも、ほぼ内容については、特殊なものを除いて似通った総合整備計画を持っているのかなという気持ちを持って見させていただきました。それで、私は個別なそのような事案について、3市村整備計画に違いがないので、合併に当たって何を一番気をつけたいのか、ということ考えて見ました。

先ほどから、何名かの委員も既におっしゃっているんですけれども、今回の1市2村につきましては、面積が724km<sup>2</sup>、南北に94kmという、とてつもなく広大な地域になるということであります。幸いにして、この1市2村については、南北に国道231号線が縦断整備されており、さらには近年、開発局によりまして「情報ボックス」ということで光ファイバーが設置されております。それに一部は今年から民間に供用が始まろうとしていると伺っております。国道231号線を1市2村をつなぐ動脈と考えれば、現在布設されております光ファイバーにつきましては神経として機能を持たせ、取り組んで見てはどうかと考えております。そのため、新たな町を作る場合、住民の物心両面において距離感を縮める施策に努めることが、新市に対する一体感の醸成につなげることが当面の重要な課題ではないかと考えております。

そこで具体的に4点ほど考えて見たのですけれども、まず、やはり動脈としての国道であります、231号線のより一層の整備促進を図るべきだと思ひます。特に、冬期間の交通安全対策、路面凍結や地ふぶき対策というようなことです。そして、ちょうど石狩大橋附近の渋滞等についてもご意見があったとおり、7・8月、特にこの近辺については迂回路がないため渋滞いたします。これらも解消すべきではないかなと考えています。それと、交通手段としての公共交通を1市2村に対して確保すべきでないかと思ひます。

また、光ファイバーを利用した通信網の整備ということで、特に浜益、厚田地区は沢沿いに集落が点在しておりますことから、石狩の皆さんにはちょっと解り難いかも知れませんが、テレビ難視聴地区が多くございます。現在、共同受信施設ということで施設を設置し、有線の線を引いて各家庭に共聴の体制をとっているということであります。今後、地上波テレビ放送のデジタル化に伴い、これらの施設の改修が必要となってくるのかなと思われます。そうしたことに

対しまして、既に布設されております光ファイバーを利用すれば、施設の維持的な面、そして例えば新市となった場合の議会の傍聴についても、これらの施設を利用することによって、浜益に居ながらにして議会を傍聴できる、というようなことも可能になるのではないかと思います。

それと、光ファイバーの特殊性であります、高速・大容量ということを最大限利用しまして、音声というよりも画像を中心とした情報のやり取りを可能とするようなサービスを提供してはどうか。特に医療過疎になりがちな浜益・厚田については、そのようなシステムを導入することによって、石狩や札幌地区の高度医療の一定のサービスも受けられてくるのかなと。また、教育においても、厚田、浜益そして石狩の各学校とが、そうしたものを利用して交換授業のようなものも可能になってくるのかなと思います。

また、やはりいくら国道の整備をしたとしても、緊急的な医療についての対応ということがあります。現在の段階で、いくら自動車でがんばったとしても1時間以上かかります。そのために緊急時の医療体制については各2村にヘリポートを設置し、そうした夏場の水害等に対する緊急医療の対応を図って見てはいかがかなと思います。

各市村の一次産業の関係なんですが、これらについては、現在、農業については厚田・浜益が当別と合併している関係で北石狩農協というエリア、石狩市は単独で石狩市農協という、農協としての2つのエリアがあるのですけれども、これらの農協間を超えた、新たな広域集出荷体制の構築を考えつつ、また、現在地消地産ということで取り組まれておりますけれども、これらにつきましても新しい市のみならず、札幌市圏を含めた中での地消地産ということに取り組んで見てはいかがかなと思います。

私が新市の構想に対して考えた内容については以上であります。

加納委員長：はい、ありがとうございました。次、はい、中村委員よろしくお願いたします。

中村委員：私もいくつかここに書き留めてきたんですけれども、前の方々から、かなり自分と同じものもありましたし、似通ったものもありますので、その点は省かせていただきます。

現在、石狩市が進めております、新しい交通機関の体系についてでありますけれども、やはりそのことを強力的に進めていくことにおいて、人口も増え、それから交通機関としての札幌までの乗り入れを石狩地区で、例えば自家用車をそこに置いて、公共機関を利用し札幌で用事を足してまた自家用車に乗り換えて自分の村に帰るというような新しい体系はどうなのかなと思います。そうしたことによる効果というのは、ただ団地を作って人口を増やすだけのことでなくて、こうした機能が充実してくれば、必然的にそれらのものも付いてくると私は考えている訳であります。今までの様々な例でも、そうしたことが方々にあることですので、こぞって我々は強力的に進めていくことが、この新しい市の発展につながる第一歩ではないかと考えております。

もう一つは、各1市2村は地域毎に様々な施設をもっている訳であります。そうしたものの再利用を分類的に分けて、整備することによって交流の場が広がる。また、地域の子供たちに対しても、それから教育に対しても必然的にそうしたものがついて回るのじゃないかというふうを考えておりますので、皆さんにそのことをご審議いただくことにしたいと考えております。前段に申し上げましたけれども、かなり重複した面がありますので、その面は省かせていただきます。以上であります。

加納委員長：ありがとうございました。次はいかがでしょうか。今、8名の委員さんにご提言をいただきましたので、あと残りの皆さんにはこちらからご指名ということでよろしゅうございましょうか。それでは石狩の山根委員、よろしくお願いたします。

山根委員：石狩の山根でございますけれども、針のむしろというか、逃げ出したい心境であります。与えられた宿題と申しましょうか、まちづくりへの提言シートをいただき、私なりに考えたんですが、主婦の域を出ないんですね。

石狩市、厚田、浜益の地図を見ながら、それから今まで私が厚田・浜益の地区に足を入れたというのは、例えば厚田の夕焼けコンサートですとか、浜益のサクラボ狩りとか浜益温泉とか、そういうレジャー施設の方に行ってとてもいい思いをさせていただいたということがありまして、厚田・浜益はレジャーとか観光、そういう面で伸びたらいいなと思いました。それから先ほどちょっとお話し伺ったことで、ここには書いてこなかったんですけども、シルバーのケア施設ですとか、特養なんかというのは、もし自分がだんだん歳をとって考えるに、やはり、過疎地区ではなくて町の中心部にあるべきものではないかなと思うんです。自分が歳をとってきて、そういう立場になったときには、やはり人のふれあうところ、人の交流の多いところというのが一番望ましいと私は考えているのです。

それから、もう一つ、今6万都市になるかなと思うところで、文化施設、今、音楽団体などは札幌市に会場を求めるといことが多くありまして、それには石狩のお客さんもいっぱい連れて行ってしまおうんですね。それで、石狩市の顔となるというか中心となるような文化ホール、それは維持費とか色んなことを考えると問題が多々あるかと思うんですけども、私が他の都市で感じてきたところでは、それが単なる文化ホールというよりは、居住空間とか、商業スペースとか、いろんなものを兼ね備えたものであって、今、私の廻りの花川団地の住民のことを考えると、それらのものが全て札幌に依存している、だから札幌に目が向いているといことが多くあるように思うんですね。そういう本当に充実したものが出来れば、もっともっと活性化されるんじゃないかなと思います。それが単なる箱ではなくて、生活の息付きが感じられるようなものであったらいいなと考えております。以上です。

加納委員長：ありがとうございます。次ございませんか。それでは次に厚田村の相原委員、よろしく願います。

相原委員：厚田の相原でございます。我々漁業者でございますが、皆さんご承知だと思いますが、私たち3単協は16年1月1日からの合併になります。今そういう中で、例えば、ニシン放流事業、サケ、そしてハタハタ、個々にやっていますけれども、例えば合併になったとしたら、今まで以上に石狩湾にニシンなど、そういうものを昔のように活気のある浜になればいいなと、ただそれだけを願っております。以上です。

加納委員長：はい、ありがとうございます。次に、石狩の長原委員お願いいたします。

長原委員：多少、今までの皆さんのお話に水を差すといいますが、積極的な発言ができないのが申し訳ないと思いますが、私の意見を述べさせていただきたいと思ひます。この新市将来構想に、今あまりにも大きな夢、バラ色の夢を描くといことはなかなか難しいんじゃないかと私は思ひます。なぜなら、今回の合併の背景といことを踏まえて見ますと、一つは国の財政削減といものがある訳ですし、また同時にそれに伴う市町村の財政問題と、将来共に現在の財政が維持できるのかどうかと、こういった点が非常に大きな問題があつて合併といことも選択の課題として提起をされている訳です、その合併を推進しようとい意味で、バラ色の夢をあまりにも盛り込むんだとい計画づくりになりますと、それ自体が特例債とい財政的な背景がありますので、逆にそれは将来の世代に大きな負担を残す結果になりはしないかといことも心配されるところであります。

また、交付税の措置ですとか特例債措置などを考慮した時に、現在、先日晒されました財政計画では約10年程度ということが事務局から報告ありましたが、私としてはやはり20年程度の計画づくり、特に財政計画につきましては20年程度の見通しを持たなければならないんじゃないかなというふうに考えるところであります。

以上の立場から、新市構想はできるだけ質素なものとしての立場で考えていくことも必要なかと思えます。また、合併に伴いまして決してメリットだけでない、大変なデメリットということも、合併問題研究会などの報告にも予想されている訳でございます、そういったデメリットに対してどういう説得力を持って市民、村民の皆さんに説明が出来るのかということも示す、そういった努力がまた一方求められているのかなというふうに思います。今までのところが将来構想策定に関する意見ということでございます。

次に、まちづくりの提言ということですが、地方自治ということを本来の団体自治と住民自治というような本旨の立場に立って考えて見るならば、光ファイバー、その他各種情報手段というのが、今日、非常に発達しているので、団体自治としての運営というのはそれなりにやる気になったら可能ではなからうかと思えます。しかしそこにも、当然、職員の削減の問題など、大きな痛みが伴う、そのことは覚悟しなければならないと思えます。現在のまま、という訳には当然行かないというふうに思います。

一方、住民自治という立場を考えたときに、先ほどから多数の委員の皆さんからご意見が出ていましたとおり、この広い地域、国道231号線一本だけで結ばれているこの沿岸に70数km、こういう町の形状、地理的条件からしますと、住民自治として一つのコミュニティを形成していくということには相当大変だと、困難が伴うということも予想される訳です。その地理的条件をどう克服するのかという点を、知恵を絞ることも必要なんだと思えますが、どなたかがおっしゃってましたように、海上輸送などを利用したあり方というのにも検討できないのかなというふうに思っております。

次に、住民自治と住民コミュニティを一体としていくということでは、その中で一番大きな課題になるのが、やはり都市基盤の整備だろうと思えます。石狩の歴史で言いましても、石狩の現在の団地というのは後で出来た訳なんです。ところがその後で出来た団地が、上下水道をはじめどんどん都市基盤が整備されていく。道路も上下水道も公共施設も一番先にできていく。そうしますと、旧来、今までの地域にお住まいだった本町地区の皆さんから見れば、なぜこの石狩花川の団地だけが整備されるんだと、我々、もともとそこに住民じゃないかと。何も出来ないじゃないかと。こういうご不満というのはものすごくあるのは当然でございます、そこで相当無理しても下水道整備なども取り組んできたという経緯もございます。

当然、今後、一つの町とすれば、この厚田・浜益地域も、現在、石狩市は下水道整備率でいうと90%近いぐらいになっていると思うんですが、そういった下水道整備ということも求められるでしょうし、上水道などの問題、都市基盤整備をどう進めるのかということが一番大きな問題になるのではなからうかと思えます。

課題という点では、各章、各分野別に、様々私も個人的には意見や提言も持っておりますが、この時間の中で、5分でそれを述べよということは無理ですので、それは個々の審議に入った時に、また色々意見は述べさせていただきたいと思えますけれども、いずれにしても公共施設の配置問題、それから各種公共料金の統一の問題とを、具体的にこの新市計画の中で、先日晒されましたスケジュールの中で、果たしてそれがどこまで住民の合意を得ながら進行可能かという点で

は、非常に将来にかかわる大きな問題ですので、一定の十分な時間的余裕を持ちながら、今後のスケジュールを進めていく必要もあるなと思います。あまりにも拙速に過ぎることはちょっと問題を残すなというふうに思っているところでもございます。そういった点をその他の点で意見で付け加えさせていただきまして、私の意見とさせていただきます。以上です。

加納委員長：ありがとうございました。最後に田中委員の方からお願いいたします。

田中委員：石狩支庁の地域政策部長の田中でございます。共通委員として新市将来構想策定に関して意見を申し上げさせていただきたいと思っております。少し厳しく、役所的な言い方、冷めた言い方になるかと思っておりますけれども。

今、長原委員の方からも意見がありました、それと似ているかも知れませんが、新市将来構想の策定に当たっては、当然に、新しいまちづくりのために「夢」の部分盛り込むことは必要でないかというふうに思います。ただ、往々にして総花的な構想になる場合もありますので、そうならないように合併の目的を十分に検討した上で将来構想を策定するように留意する必要があるのではないかと思います。あれもこれもではなくて、あれか、これかといった選択と集中というものも必要でないかと思っております。それから、事業の実施についてでございますけれども、協議会において決定されております、「新市建設計画の策定方針」にも示されているとおり、健全な財政運営の観点を中心に踏まえる、ということになっておりますので、特にプロジェクト事業等の個別事業を盛り込む場合には、財源確保を含めて、建設計画で求められています財政計画との整合性についても十分に検討しておくことが大切ではないかと思っております。国や道に対して要望をする事業については、予算の関係、検討期間も必要でありますので事前に関係機関と相談や調整等も十分しておく必要があるのかなと思っております。構想策定に関しては、ちょっと冷めた意見ですが、こういった感じです。

新しいまちづくりへの提言として2つ考えて見ました。各委員さんの発言の中でも触れておりましたけれども、一つはやはり、住民の交流という観点、もう一つは地域の特色・特性に配慮をするという観点の2つを考えて見ました。一つ目の住民の交流という観点につきましては、これまで、それぞれの地域において歴史的・文化的事情背景にイベント等が行われてきていると思っております。その中で特に3市村がこれまで培ってきた地域イベント、伝統文化については、これからは継続したり、将来に伝えるということによって、住民がお互いに交流し合い、尊敬し合うというようなまちづくりを目指すということも必要ではないかなと思っております。2つ目の地域の特色、特性に配慮するという観点ですが、合併するとどうしても小さな町は寂れてしまうというような懸念があると思っております。そういうことで、地域の産業構造等に注目するなどして、それぞれの特色や特性を活かした地域のあり方や行政体制の整備などについて、3市村のせっかく作った基本構想、あるいはそれに基づく総合計画というものがありますので、これらを踏まえながら、新しいまちづくりに取り組んで行く必要があるのではないかと思います。例えば、石狩市は、先程発言の中でも出てますけれども、石狩湾新港というものを抱えてますし、札幌市に隣接しているという都市でもあります。都市機能も充実しているということでございますので、2次、3次産業を中心にするとか、それから厚田、浜益村については豊かな自然環境の保全ですとか、1次産業の振興を中心に、行政サービス、行政体制の整備を行うといったように役割分担を明確にしてまちづくりを進めるといった方法もあるかなというふうに思います。以上です。

加納委員長：はい、ありがとうございました。ただ今の田中委員の発言で、今日ご参加をいただきました各委員さんから、それぞれご提言なり、ご課題をいただきましたので、私がかしやべら

なかったらむしろしたと思われると困りますので、箇条書きで書いてありますので、私の提言も含めて2、3分で終わらせていただいて、その後休憩を取りたいと思いますのでよろしく願いいたしたいと思います。

私の方から、テーマとして色々考えたんですけども、まず、3地域に共通する海と川と山とあるんですけども、特に海と川については共通する課題だなと思いますので、「海と川に育まれた自然環境都市を目指す」というのをまずタイトルで出して見ました。その中で、これから策定作業の課題だとか、色々な部分について検討されることになって行くだろうということで、箇条書きとして、まず一つには、「第一次産業の地域毎の分担化」ということ、また、「観光振興の連動化」これは海岸線地域を中心としてということになっていきますけれども、今、稚内から小樽まではオロロンラインとして総称されておりますけれども、もしも、この3つの自治体と一緒にっていく方向の中で、それとは別称として、例えば「サーモンライン」、夕陽が大変きれいなところでございますので「サンセットライン」というような独自のそういうものを提示してもよろしいのかなというふうに思っております。

それから、「行財政の効率化」というのは当然の課題だと思っております。また、「地域間の格差の均衡化」ということで、これは福祉、行政、医療含めて均衡化していかなければならないということが課題になっていくのかなと思っております。

「公共施設の配置と多目的利用の検討」ということで、一つ一つの物がバラバラになっているのではなくて、ある程度集約された、多目的に利用できるような公共施設の検討ということが考えられるのかなと思っております。

「教育施設の問題の再整備と再検討」ということで、浜益には浜益高校がございますけれども、これが将来、3地域と一緒になったときに、高等学校から含めて、小・中・高の一つの一元的なものを地域内の中で考えるべきでないかというふうに思います。一部石狩には私立の大学がありますけれども、そのようなことの検討も必要なかと思っております。

「地域毎の特色・文化の継承と新たな文化の融合の可能性」ということで、3地域と一緒にすることで新しい文化の創出ということも必要なかなと思っております。

「三地域を結ぶ新たな交通体制の整備」ということで、これは新しい道路も含めて検討をする余地があるかなと。特に課題となっております、この3地域の路線バスですけれども、3地域の交通の便が良くなれば、そんなに浜益、厚田、石狩の較差感というのは無くなっていくかなと思いますので、大幅な増便など含めてそういう部分のことも考えるべきかなと思っております。それから、特に石狩の方に触れますけれども、「第二次・第三次産業の推進分担」ということで生産と雇用の拡大ということを進めるべきでないかと思っております。

民活の利用というと、ちょっと意味合いが違いますが、小さな自治体、市役所を目指す中で、「NPOの活用で行政事業の分担化」ということで、NPOの活用を上手く行政と連動しながら、NPOでできることについては、NPOの活用をしっかりとやるべきではないかというふうに思っています。そういうことを集約してですね、あとは皆さんからも色々お話しありましたので、私としては先ほど藤原委員の方からも一部そういうお話がありましたけれども、私もこの3地域における自己完結型自治体の建設ということをしっかり目指すべきではないかと思ます。先ほど自給自足の話もありましたけれども、食も含めて地産地消だとか、産業の連動化だとか、教育の連動化、先ほど言ったことを集約して、そういうことをやるのが新しい自治体のイメージとして、私なりに考えたということで発言をさせていただきました。以上で終わります。



それでは、1時間ちょっと過ぎましたので、10分程度休憩したいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(休憩)

(フリートーク)

加納委員長：それでは、休憩前に引き続き、会議を再開いたします。以上で全ての委員さんからの「新市将来構想の策定に関する意見」及び「新しいまちづくりへの提言」について、発言が終わりましたので、続きまして、自由な意見交換の時間にいたしたいと思います。又、先程の委員の皆さんの提言の中で、それぞれ言い漏らしている事があったり、この事だけは話をしておきたいという様な部分がありましたら、その事も含めご発言をいただければと思います。

これについてはご指名して、という形ではなく、自主的に挙手をしていただき、発言をお願いしたいと思います。いかがですか。はい、浅井委員どうぞ。

浅井委員：先程の、私の話の補足と言いますか、続きなのですが、新しいまちづくりの重点として期待する事といたしまして、まず1つ目に、企業誘致の為の魅力的な施策という事がございます。色々と難しい問題があるかとは思いますが、特に、石狩湾新港地域のものを策定していただいて、強力で推進していただき、そして税収の増加と人口増を図るという事です。

次に、先程お話しにありました、「基本的事項に関する調査資料」によりますと、石狩に来る観光客の中でも本州からの客の入り込みが少なく、一昨年、石狩を訪れた本州からの観光客の割合が、全体の4パーセントだったのだそうです。先程、何人もの委員の方々も発言していらっしゃる様に、3地域には良質な観光資源が多い中、この様な現状というのは、非常にもったいないと思います。したがって、札幌だけではなく、この3地域も観光ツアーのルートに入るような「観光客誘致策」を推進していただくという事が2つ目でございます。3つ目は、3地域のうちのどの場所でも構いませんので、是非、警察署を設置していただきたいという事です。この3つを申し上げたいと思います。以上です。

加納委員長：ありがとうございました。他にございませんか。はい、河合委員どうぞ。

河合委員：現在、厚田村で考えているのが「海岸環境整備事業」という事で、国や北海道の資金で、海に「海浜プール」を作り、ほぼ完了している状態でございます。上物の整備促進は村でやらなければならない。200ヘクタールの村有地の「森林環境整備事業」の推進、ゆかりの偉人の功績を記した、歴史館の建設を考えております。

加納委員長：ありがとうございました。他はございませんか。はい、中村委員。

中村委員：ちょっと、石狩市の方にお聞きするという形になるかとは思いますが、今、盛んに、新聞やテレビ等で言われております事に、「石狩湾新港」の名前を「札幌港」等の別な名前にして、全国にPRしようというような事がございます。札幌市には海がある訳ではなく、又、人口動態から見ましても、石狩市はすぐ隣ですので、札幌市と言っても過言では無いという事で、そのような事を言われているのではないかと思うのですが、やはり、地元の地域の名前を外してしまった港はあり得ないと思いますので、いつまでも「石狩湾新港」という名前では通らないにしても、「石狩湾産業新港」等として、地域発展の一つの大きな柱にするという事も今後考えていく必要があるのではないかと思います。いかがでしょうか。

加納委員長：ありがとうございます。はい、小池委員。

小池委員：石狩湾新港については、先程、私も提言と言いますか、意見を申し上げたのですが、実際問題、会社自体が破綻状況ですから難しいのですが、要するに、石狩湾新港について、

石狩市としては、どの程度の意識付けを持っているのかがよく解りません。この場は議会ではありませんので、それに対するご返事をいただくという訳にはいかないのです、要するに、もうこうなったら、一から出直すくらいの事を考えなければいけないと考えます。3セクですからうちは関係ないよですとか、小樽は少し土地を譲り、立場上参加しているのでしょうか。札幌と石狩と小樽ですけれども、やはり、主導的な立場に立つのは地元の石狩だろうと思うんですよ。

その辺の所、こういう時代ですから、今までの規制に縛られていれば、にっちもさっちもいかなくなると思います。だから、何でもありというか、規制緩和で考えられる事は何かあるのかというところまでいかなければいけないのではないかと思います。ウィークデイだったという事もあるのですが、青葉公園に設置されている野球場やテニスコートの周辺が野原で、誰も利用していない事に驚きました。これだけの施設を持った公園を作るのに、どれだけの資金を使用し、どれだけの人が利用しているのかを、石狩市・札幌市・小樽市が、どの程度、把握しているのかを知りたいと思います。もし、利用率が0に近かったとすれば、無駄なお金を注ぎ込んでいる事になるので、そういう事を考えると、何でもありの時代という事を踏まえ、言うべき事は言い、やるべき事はやった方が新市としては是非必要だと思います。以上です。

加納委員長：ありがとうございます。はい、池端委員。

池端委員：池端です。先程、委員の皆さんのお話しの中に、地域の事等色々出てきたと思います。その中で大きく分けると、懸念事項であります交通アクセスの問題であったり、それぞれの町にある文化、お祭り等に関係した地域特性、福祉関連、それぞれの町の地域交流のあり方、行財政のシステム、産業構造、各自治体における市民サービスの関連事項、それぞれの都市基盤整備に関してというような項目がそれぞれの町の実態も含め、お話があったと思います。ここで、多岐にわたり、バラバラに話してしまうと、收拾がつかなくなってくると思いますので、そういう項目に分けながら話し合い、地域格差が3市村それぞれにあると思いますので、項目に基づいた現状・要望等を3市村から出し合い、総合的な新市のあり方に結び付けていく議論にしてはどうかと思います。

加納委員長：今、池端委員がご提案されました取り進め方を含め、今後の委員会の持ち方、進め方については、事務局の方ともよく検討し、次回の委員会の中で委員の皆さんにお示しをさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。他にございませんか。皆さん、よろしいですか。勿論、話し合いがこれで終わるという事ではなく、多分、話し出すとまだ切り無くあるとは思いますが、今日のところは、この辺でよろしいでしょうか。はい、池端委員。

池端委員：池端です。特に関連項目で、強くご要望があるようなところがあれば、ここで終わりというよりは、お話ししていただいた方が良いのではないかと思います、いかがでしょうか。

加納委員長：事務局の方といたしましても、委員会の中では委員の皆さんのご発言を出来るだけ多くいただき、その中で色々検討させていただきたいし、次の委員会で検討していくような材料にもなっていくと思います。又、そういった趣旨で委員会を開催しており、事務局の方から、こういう方向、ああいう方向といった話し合いの方向性は示されておりませんので、今日は自由にご発言をいただきたいという事ですので、よろしくお願いいたします。その上で、何かご発言ございますか。はい、池端委員。

池端委員：福祉関連、医療関連の話も、それぞれ多数ございましたが、その中で、郵政で行っている郵便局の「ワンストップ事業」がございます。有料ではありますが、例えば、老人宅の個別訪問、個別の声掛け、住民票の手続き等を最寄りの郵便局で取れる等といった行政サービス、

こういったものを利用した行政サービスや福祉政策という部分に反映しますと、広域にわたっても、同じような平均的な市民サービスが得られるというふうに考えており、今後、郵政省の動向も踏まえながら、こういったものを上手く利用した、福祉関連事業のあり方もあるのではないかと考えております。以上です。

加納委員長：ありがとうございました。他ございませんか。はい、河合委員。

河合委員：私どもの村で、今、パークゴルフ場を作るといようなことで、村民の方から、今合併を目の前にして、こういうことをやることおかしんじゃないか、これを新しいものに持ち込むんじゃないかということが、各議員さんの方に、石狩さんの方にもいったやに聞いておりますけれども、私は決して村長の味方をする訳ではありませんけれども、やっぱりあの土地を購入した時点で、みなくるとい施設を作って、その後、総体的な厚田村の発展計画の中で、特に地域から何か土地の利用と活性化につながるようなものを作って欲しいという事で予算を付けたということなんです。

今、これからの色々やりたいことが、もし合併するとしても平成17年までに色んな問題が各市村で、先程、浜益さんからの中学校の問題や火葬場の問題など出ましたけれども、やっぱりそういう問題が出てくるんだと思います。それで私の言わんとする事は、こういう会合を持った時に、この地域、例えば浜益に行った時に、30分でもいいから、その地域のそういうものも委員として把握する必要があるんでないかと考えています。

たまたま今日、この場は厚田村の議場なんです。昭和39年に建てて、40年経っています。庁舎の建設基金で5億ちょっと基金も積み立てしてあるんですが、合併の話が出て、それはやめようということで、浜益が相当前に12、3億かけてやりましたけれども、競争してそういう事をやる必要もないということで、今計画しているのは、総合センターにドッキングして、その半分ぐらいの、議場なんかはもう作らないということで、近いうちに福祉の健康センターを今のところ7億ぐらいの予算で建てようとしているんですけど、これが現実化していったら、何で今、合併目の前にしてそんなものをやるんだ、というようなことを言われがちだと思いますけれども、それで少なくともそういう実態を、厚田に行ったらそうかと、議場もやめて健康センター、7億ぐらいのものを建てるのかというようなことを、理解する、しないは別として、そういう実態も知っていただきたいと思うんですよね。極端に言うと、大山さんに怒られるかも知れませんが、私ども火葬場の問題の時も随分ここで、1年に30人から40人しか死なないのなら石狩にやってもらった方が、バス代で10万くらい出したって、何百万かで済むんじゃないか、何で1億もなんぼもかけてそんなことやるんだと。そうしたら、何で俺らが厚田に生まれて厚田で育て、石狩で焼かれなきゃならないんだ、という事の中でやりました。だから、さっき大山さんが言ったように、そういう感情もあって、これから浜益なんか火葬場の整備等もやらなきゃないんだとすれば、やはり少なくとも我々委員が理解するのが必要んじゃないかと、全部が全部、賛成ということとは思ってませんけれども、実態はそうかと理解してもらうためにも、30分、この日程の中で1時半から集めて5時頃まで、1時間ぐらいでも、その地域を何回かに分けて、浜益に行ったときは浜益の施設を、厚田に行ったときは厚田の施設を見る機会を作っていただければいいなと思います。委員長よろしくお願いします。

加納委員長：どうもありがとうございました。貴重な御意見として、これについても、しっかり検討をさせていただきます。当然、地域ごとで抱える問題は、相当に切実な状況になってきているという事は委員の皆さんの共通認識だと思いますので、この委員会の話し合いの中で、皆さ

んが、その事を踏まえ、ベースにしながら、更にという部分で、ご発言をされていると思いますし、又、その事についても、加味しながら、ご発言されているのかなと思います。そういう事を乗り越え、どこかで合致点、合意点を見つけていく事が委員会の使命にもなっていると思いますので、出来る、出来ないといった事については、この後の検討になりますが、率直な意見はどんどん出していただき、その事につきましては、事務局としても、しっかり受けとめさせていただきたいと思います。

他、ございませんか。無いようでしたら、本日の委員会につきましては、この程度にいたしたいと思いますが、ご異議はございませんか。

(異議なしの声)

加納委員長：ご異議が無いようですので、本日の協議事項でございます、「新市将来構想の策定に関する意見」及び「新しいまちづくりへの提言」については、以上で終了いたします。なお、本日、ご発言の為に作成していただきました提言シートにつきましては、参考として、回収させていただきますので、お帰りの際、事務局職員にお渡しをお願いいたします。本日、回収いたしました提言シートにつきましては、名前は出しませんが、それぞれに出されたことについて一まとめにし、次の委員会の時に、委員の皆さんに配布をさせていただき、それをベースにし、又、参考にしながら、審議をしていきたいと思っておりますのでご協力よろしくをお願いいたします。以上で、本日予定されておりました案件につきましては、全て終了いたしました。事務局より、次回の開催日時について報告をさせます。

### 3. その他

工藤事務局長：事務局の工藤です。次回の第3回小委員会につきましては、8月中に、浜益村におきまして開催する事としております。詳細な日時につきましては、本日、委員の皆様からいただきました、貴重な意見、ご提言を基に、これから事務方で進めさせていただきます、「新市将来構想」のたたき台の作成作業の進行状況を見まして、別途、委員の皆様のご都合をお聞きしながら、改めて日時等を調整させていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

加納委員長：各委員さん、よろしいですか。事務局の方から、各委員さんに問合せをし、ご都合をお聞きした上、日程を決定し、再度ご連絡するという事になりますので、よろしく願いたいと思います。

(「この場で日程は決められないのか。」との声)

加納委員長：事務局。

工藤事務局長：先程申し上げました、「新市将来構想」のたたき台の作成作業を事務方で進めていくという事についてですが、これは、各首長や行政側の意見を一色短にし、一度事務方で作って見てから、皆さんにたたき台というのをお示しさせていただき、その上で、今後、内容に関しまして、この字句はおかしいだとか、言っていた内容と違うのではないかというようなご意見を賜りたいと考えている次第でございます。

そういった意味で、事務方で整理させていただき、それが出来次第、日程調整の方をさせていただきたいのですが、事務方の日程が、まだ定まっていないという事で、次の委員会の日程を、この場でお示しする事が出来ないという点を、どうかご了解いただきたいと思います。

加納委員長：よろしいですか。ここの委員会の部分だけではなく、懇話会やその他の色々なも

のスケジュール調整等もございますので、その辺の所を見越した上、まとめ上げていくことになるものですから、今日の時点では、はっきりと何月何日という想定が出来ないという話でした。大変だとは思いますが、事務局の仕事として、それぞれの委員さんに個別に日程の調整を図り、決定したいという事で話を伺っているものですから、その様な運びでよろしいでしょうか。はい、事務局。

工藤事務局長：一週間程度の日程の枠を設定させていただき、往復ハガキを委員の皆さんに送付し、返答をいただき、出席可能者数が一番多い日を次回の委員会開催日時とさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

加納委員長：よろしいですか。

(異議なしの声)

#### 4. 閉 会

加納委員長：それでは、以上をもちまして、本日の委員会を閉会いたしたいと思います。ご苦勞様でした。ありがとうございました。

(以上)

上記小委員会の経過を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

新市建設計画小委員会委員長 加 納 洋 明